



みんながチャレンジ 明日に向かって 本気でGO!

本郷の輝き

横浜市立本郷小学校
学校学年便り 2月号
令和6年1月31日

横浜市栄区中野町16-1 電話 891-6813

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hongo/>

「季節の節目」

校長 瀧田 健二

1月20日の大寒が過ぎ、間もなく節分・立春がやってきます。暦の上では春となりますが、2月はまだまだ寒い日が続きます。感染症の流行にも気をつけて、元気に過ごしてほしいと思います。冬休み明けの朝会で、「1月は行く」「2月は逃げる」「3月は去る」と言われるように、「この3か月はあっという間に経ちます」と子どもたちに話をしました。この言葉の通り早いもので、1月が終わり2月になります。1年間のまとめの時期になります。教職員一同、改めて気を引き締めてまいります。

さて、1年の中には「季節の節目」となる日があります。大寒や節分などがそうです。季節を表すこれらの言葉集めを子どもたちとしてみるのも楽しいかもしれません。ざっと思いっただけでも、春分の日、夏至、秋分の日、冬至、大寒、節分、立春、立夏などなど。

では、間もなくやってくる節分とはどんなものなのでしょうか。節分とは、豆まきをする2月3日をイメージするかもしれませんが、実は節分は年に4回あるのです。それぞれの季節の変わり目を表す「立春」「立夏」「立秋」「立冬」、それぞれの前日が節分なのです。節分は、文字通り「季節を分ける」という意味となります。ところが、日本では立春は旧暦の1年のはじまりとして、特に尊ばれたため、次第に節分といえば春の節分のみを指すようになっていったようです。

節分には豆をまきますが、これは中国の習俗が伝わったものとされています。

豆は「魔滅（まめ）」に通じ、無病息災を祈る意味があります。昔、京都の鞍馬に

鬼が出たとき、毘沙門天のお告げによって大豆を鬼の目に投げつけたところ、鬼を退治できたという話が残っており、「魔の目（魔目＝まめ）」に豆を投げつけて「魔を滅する（魔滅＝まめ）」に通じるということです。季節の言葉には由来がありますので、豆まきなどの行事の時に子どもたちに話してあげるのもいいと思います。

